

とて不道山長堤川にも麓城設けし所堤川藩代北
家人身山常刀といふ者心暗り幸願安堵の約束か
て相手を定め城に西長栄寺といふ隠居所の家人
腹部金平曰小三郎といふ者火をこゝに西風吹て城中
焼失是小依て忠盛の妻室常刀が妻を刺殺し其
刀より梅王をも害し我より自害せんと欲しつ所戸
に漢路守馳来り母梅王其の制し角館に落行瑞雲
院良智和尚を頼み居る道盛公是を聞し口を以て復
小思曰上月十二日梅王母ともみ角館に沖おきまけ
所北地を授けむいふに後小戸は修理元盛門といひ其

後漢路守浪くの時とありけり其の形勢をや北
たりらん瑞雲院を頼み落髪してか北所あり死すす年
経く漢路守一子ありあるを聞召道盛公一族と云藩
代に家臣の子ありむ其後不捨室へも便ふく連十三家
みふくを石にされ創あり石に仕られけり後小戸は相摸守
とて大忠をそしめあり是あり道盛公を急悲死し隣村
堀内の政務をふくけり山平郡の諸士小至るも累
代恩顧の主ふれむ招ふてふ死集り程なり百余人
及び徳知山平郡荒川の城主戸前越中守秋田家
累代の家人より戸前に住居せしが近年秋田を及